

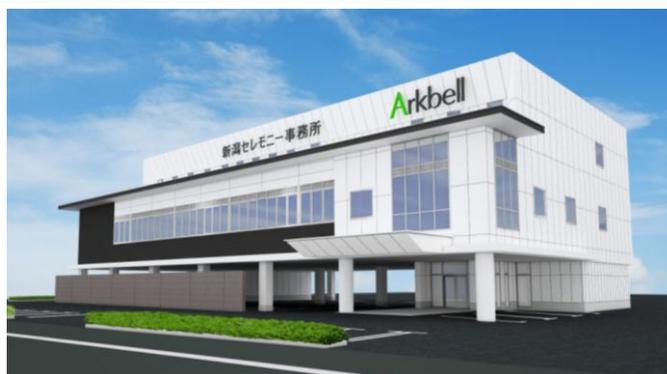
CASBEE®新潟 | 評価結果 |



■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築(簡易版)2010年版
CASBEE-新築(簡易版)2010年追補版(BEI対応)
■使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.2.1)

1. 建物概要

建物名称	新潟セレモニー亀貝事務所新築工事
建設地	西区 亀貝3379番
用途地域	準工業、防火指定なし、法第22条区域
建物用途	事務所、工場
竣工年	2017年3月 予定
敷地面積	仮想敷地 2500 m ²
建築面積	845.90 m ²
延床面積	2,442.85 m ²
階数	地上3F
構造	S造
評価の段階	実施設計段階評価
評価の実施日	2016年8月10日



2. CASBEE新潟の評価結果

	B+	$BEE = \frac{Q \text{ 建築物の環境品質}}{L \text{ 建築物の環境負荷低減性}} = \frac{43.7}{37.4} = 1.1$
S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★		

3. 新潟市の重点項目の評価

重点項目	平均スコア	評価	項目	スコア
1. 長寿化の取組み 誰もがずっと安心して生活するために	3.3		バリアフリー	3.0
			維持管理	3.5
			更新性	3.4
2. 地震への取組み かけがえのない人命、財産、思い出を守るために	3.0		耐震・免震	3.0
			信頼性	3.0
3. 大雨への取組み 大雨につよいまちづくりのために	3.0		雨水排水負荷低減	3.0
4. 自然エネルギー利用の取組み 地球温暖化対策のために	3.5		建物の熱負荷抑制	4.0
			自然エネルギー利用	3.0
5. 資源循環の取組み 持続可能な循環型社会づくりのために	4.7		節水	4.0
			リサイクル材の使用	5.0
			再利用可能性向上	5.0
6. 水と緑を活かす取組み 豊かな田園空間を次世代に引き継ぐために	2.0		生物環境の保全・創出	1.0
			敷地内温熱環境の向上	3.0
7. 新潟のまちなみへの取組み 地域の魅力を伝承・創造していくために	3.0		まちなみ・景観への配慮	3.0
			地域性への配慮、快適性の向上	3.0

4. 新潟市の重点項目の配慮事項

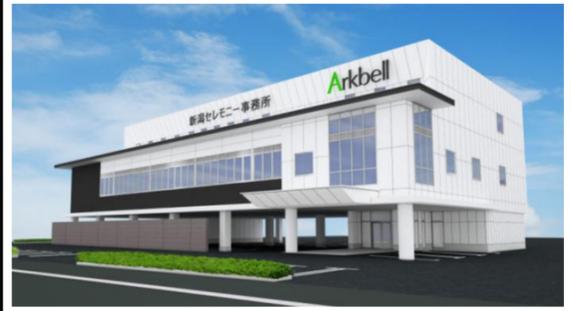
- 長寿化への取組み→空調配管、給排水、通信配線ともに構造部材を痛めることなく更新可能である。
- 地震への取組み→建築基準法に定められた耐震性を有する。
- 大雨への取組み→該当なし。
- 自然エネルギー利用の取組み→該当なし
- 資源環境への取組み→節水用便器の採用や非構造材料の再生クラッシュランを使用。
- 水と緑を活かす取組み→該当なし。
- 新潟のまちなみへの取組み→該当なし

CASBEE®新潟

■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築(簡易版)2010年版 | 使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.2.1)
CASBEE-新築(簡易版)2010年追補版(BEI対応)

評価結果内訳

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	新潟セモノー亀貝事務所新築工事	階数	地上3F
建設地	新潟県新潟市西区	構造	S造
用途地域	準工業、防火指定なし、法第22条区域	平均居住人員	165人
気候区分	地域区分V	年間使用時間	5,000時間/年
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年3月 予定	評価の実施日	2016年8月10日
敷地面積	仮想敷地 2500 m ²	作成者	(株)S.U建築設計
建築面積	846 m ²	確認日	2016年8月10日
延床面積	2,443 m ²	確認者	(株)S.U建築設計



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.1 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%
②建築物の取組み 83%
③上記+②以外の 83%
④上記+ 83%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです(kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.7

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.8

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.0

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.4

LR のスコア = 3.5

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.5

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 設計上の配慮事項		
総合 1.長寿化への取り組み→空調配管、給排水、通信配線ともに構造部材を痛めることなく更新可能である。2.地震への取り組み→建築基準法に定められた耐震性を有する。3.資源環境への取り組み→節水用便器の採用や非構造材料の再生クラッシュランを使用。		その他 -
Q1 室内環境 断熱材の強化により外皮性能を上げているなど、温熱環境に配慮している。	Q2 サービス性能 天井高を高くし、心理性・快適性に配慮している。階高を高く設定し、壁長さ比率を小さくすることにより、空間にゆとりをもたせている。	Q3 室外環境(敷地内) 視線を遮らない様な低木の配置、メッシュフェンス、外灯設置など防犯性に配慮している。
LR1 エネルギー LED照明を採用するなど、設備システムの高効率化に配慮している。	LR2 資源・マテリアル 省水型機器を用いるなど、水資源を保護している。フリーアクセスフロアを採用するなど、部材の再利用可能性向上への取り組みをしている。	LR3 敷地外環境 ライフサイクルCO ₂ 排出率を83%とするなど、地球温暖化への配慮をしている。広告物照明を行わないなど周辺環境へ配慮している。必要台数分駐車場を確保し利便性に配慮、交通負荷の抑制に配慮している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される